

子どもを主体とした保育研修において公開保育を実施した5園(私立保育所2、公立保育所1、私立幼稚園1、公立幼稚園1)の園長及び保育者に対し、聞き取り調査を実施。

(1) 公開保育までの取り組み

① 公開保育を受けるきっかけ

- 子どもたちにとってより良い保育を展開するため。
- 様々な視点から見て助言をいただくことで保育・環境を見直し、保育の質を向上させるため。
- 新たな視点で見てもらい、様々な考えやアドバイスを聞く、質の向上。
- この2年間で他園の公開保育を見せていただき、保育の方向性を考えていた。今年4月から子ども主体の保育を目指し、保育の環境と内容を考えている中で、公開保育を園長が決めた。
- 保育を見直す良い機会であったから。
- 園長のすすめ。
- 公開保育をすることは公立園としての役割。

② 公開保育に向けて、職員間での話し合いや共有をどのようにすすめてきたか

- 他のクラスを意識しながら、担任同士で何度も話し合いを重ね、その時間を多くとってきた。
- 公開2回目の迷いがあり、去年と同じでいいのか、変えた方がいいのか、どういう風にしていくのか伝えあって、内容をいろいろ考えた。子どもも去年とは違う、どこを同じにして、何を变えるのか悩んだ。
- 公開に向けては、当日ショー的にならないように日常の保育を見てもらえるように、日頃の保育について乳児のお昼寝の時間に各クラスの代表が出てきて話し合いを行い、4月以降は放課後月一回全職員に代表からの会議報告と意見交換を行ってきた。
- 外部の講師の方にも園内研修に来ていただき、夜に環境や保育に

- ついて相談に乗っていただいた。
- 各クラスの先生と園長・副園長・主任とが話し合う機会を設け、公開保育当日の環境や流れについて協議した。
- 0歳児：子どもの午睡時間を利用して話し合い、細かいところは正職で相談。公開だからと変わったことはしない、普段通りを心がけるように話し合った。普段をしっかりと、あたりまえのことをあたりまえにしていく。0歳児の何を大事にするか話し合った(愛着・信頼・関わりを大事に)。日案の確認を行った。
- 1歳児：クラスの担任間で話し合いが増え、些細なことでも思ったことを伝え合うようになった。他のクラスとも遊びの共有や話し合いを夕方や朝礼前に行くようになった。
- 2歳児：クラス担任間で空いた時間を利用して話し合い、それを元に主担任で話し合いを重ねた。保育中にも気付いたことをその場で話し合った。
- 3歳児：幼児の主担任会議、クラス会議などで他のクラスとトピックを共有したり、子どもの姿に合わせて環境を変えていけるように話し合ったりした。
- 4歳児：クラスでの話し合いはもちろん幼児クラスでの話し合いをすすめ、年齢に応じての声かけなども再度見直すことができた。自分以外のクラスが分かると、子ども同士もつながりやすくなり、横のつながりが強くなった。
- 5歳児：クラス内での保育者同士の話し合いは毎日、保育終了後にどんな様子だったか、明日はどう進めていくか、保育者の対応はどうするか等の統一を行ってきた。3～5歳の活動がスムーズにつながるよう、朝保育に入る前に主担任同士で話し合った。
- 数回話し合った。教育の基本に関わることの見直し、環境設定、小学校へのつながりなどを相談した。
- 担任団は、自分たちの方向性が合っているのか悩んでいた。
- 全員で参観日の後に職員会を実施した。

- 毎日保育終了後に遊びの様子や流れを報告し合う。
- 指導案についても主担任で保育終了後に相談。
- 公開を決めてから日にちがあまりなかったため、日常の保育後の話し合いの中で行った。
- ドキュメンテーションの勉強会を1回実施した。

公開保育を、「質の向上を目指し保育を見直す良い機会」と捉えていただいています。子どものことを思い、専門職として日々研鑽される保育者の思いが伝わってきます。

また、このような研修事業を数年続けてきたことで、他園の公開保育を見たことも、考えるきっかけになっている様子がうかがえます。

また、公開保育に向け、多くの話し合いが持たれたことが分かります。

クラスの中ではもちろん、他クラスとも情報共有がなされ、全職員での話し合いが持たれています。

なかなか時間が取れない中、朝や夕方、午睡の時間などを活用しながら行われています。

大変ではありますが、このような情報交換・共有が園内で行われ、他クラスのことでも分かるようになると、子ども同士もつながりやすくなり、子どもの姿に合わせて環境設定ができていくなど、保育の充実につながっています。

また、公開についても、2回目の迷いなどプレッシャーになる部分もありますが、ショー的にならないよう、普段の保育を見せてもらおうといった意見があり、公開保育への意識も、より日々の保育の内容を見てほしいというように変わってきています。

園内研修や勉強会も開催され、独自に講師を招いての研修も取り組まれており、公開保育をきっかけとしながらも、公開の部分だけにとどまらず、園の保育の見直し、質の向上につながっています。

(2) 公開保育前と後の変化

① 具体的に何が変わったか。変わったと感じた理由。

<子ども>

- ・1、2歳クラス合同で公開したことで、今までより一緒に遊ぶ機会が増えた。
- ・製作遊びでは道具の使い方が分かってきた。年長児のまねをしたり、困っていることを自分で伝えて頼ったりするなど、子ども同士で声をかけ合う姿も出てきた。
- ・年長は製作遊びを楽しみ、子どもが協力して遊んでいる。準備も子どもが考えながらしている。材料など自由になったことで発想も自由になって、大人が考えつかないようなものを作りだした。変わってきた。
- ・2:1で加配保育士がついている支援の必要な子がいる。自分の思いが言えず涙が出るような子であるが、公開保育までは部屋に行くが製作遊びで何をしたらいいか分からないといった状態であった。公開保育後、自由遊びを取り入れてからは、作りたいものが出てきた。
- ・3歳:異年齢同士の関わりが増えた。お店屋さんごっこで、大きいクラスのやっているお店屋さんにお客さんで遊びに行ったりするうちに、一緒にままごとをしたり、製作して遊んだり関わりが増えた。道具の使い方を知るなど、今までにない発想・発見があった。
- ・子どもは自然の中で伸び伸びと遊び、開放されている。身のまわりのものを使って自由に遊んでいる。

<職員、園の保育>

- ・クラスを越えての交流も増え、一緒に過ごす良さを感じた。
- ・「危ないのでさせたくない。」と思っていたが、危ないと制止するだけでは何も気づけない、保育できないと感じ、一度やらせてみよう、一度は共感しようとした。止め過ぎずにゆっくりと待ち、言葉がけも変わってきて、一緒に楽しめることも増えてきた。

- ・午後の時間を子どもの好きな遊びの時間にしている。以前は、遊びを保育者が決めていたが、子どもに任せられるようになってきた。
- ・ダンボール遊びを外に広げてしてみた。キャタピラーにしたり、自分たちでつなげたり、台所や風呂に見立てて遊んでいた。すごく楽しんでいたのでまたやらせてあげたい。
- ・ねらいを「〇〇を楽しむ」としていたが、「表現する、感じる」等にした方が良いと言われ、子どもに合ったねらいを立てる中で、子どもの課題に気づけた。
- ・0歳:ただ遊びを見守ったり、一緒に遊びを楽しむだけでなく、その子の発達課題を意識したり、興味のある活動は何なのか深く考えられるようになった。
- ・1歳:4月から新しい保育へと変えてきたので、公開保育もそのままの保育ですることができた。常にこの保育を取り入れているので、今までできなかったこともできている。自分の保育を見つめ直したり、子どもの状態をより見ることができた。
- ・2歳:子どもの言葉に前以上に耳を傾けるようになり、どう発展させていくかなど担任同士での話し合いが多くなった。保育者一人ひとりの保育に対する意識が変わってきた。
- ・4歳:職員の遊びの中での声かけも変わってきたように思う。「今日〇〇する。」「昨日の続きする。」と子どもが言うようになり、保育が続いていることが目に見えて分かるようになった。
- ・0歳:子どもと関わる時にどの職員も同じ思い、生活も同じ手順・同じ方法で関わる。言葉かけも同じように、と確認し合うことでしっかりした保育につながった。
- ・1歳:「〇〇したらダメ。」と言う前に、その子はどうしたかったのかを考えてから言葉をかけるなど、子どもへの丁寧な言葉かけを担当みんなが意識して関わるようになった。
おもちゃの配置で一人ひとりの遊びがじっくりできたり、また共感しながら遊べたり、環境一つひとつの大切さが改めて分かり、おもちゃの

配置を考えるようになった。部屋のスペースの使い方。部屋を区切ったことでコーナーで落ち着いて遊べる子がいる。

- ・2歳:環境構成の大切さ、遊び込める環境づくりを意識するようになった。やってみて改善、子どもの姿から環境を変えていく。(泡遊びの道具や容器はままごとを意識して置いたものだったが、素材の探究ができるものを置いてはどうかとアドバイスをもらった。→ザル・お玉・ふるい等を置くと、お玉とお玉で泡を伸ばしたり、ザルから落ちる泡を観察する姿があったりと、変化が見られた。)

以前から肯定的な言葉かけ、子どもの思いに共感していくことを大事に保育してきた。これからもこのような姿勢で子どもたちに向き合っていくことの大切さを実感した。

- ・3歳:他のクラスの子どもの様子や思いも職員同士で共有することで、同じトピックに興味を持つ子ども同士をつなげるよう意識するようになり、異年齢の関わりの中で、遊びを展開していく姿が見られるようになった。
- ・4歳:子どもの気づきや発見にそれぞれが注目するようになった。10視点を取り入れた。以前より環境を見直すことが増えた。クラス担任間で子どもの興味について話し、どんなつながりか考えたり、どの方向に向かっていくか予測したりする話し合いが増え、クラスで見通しが持てるようになった。
- ・5歳:支援の先生も積極的に関わってくれ、クラスの中で共通認識できるようになり、子どもへの関わりを統一できるようになって、お互いに助け合うようになった。みんな自信を持てるようになり、話し合えるようになった。10の姿を使ってドキュメンテーションも書くようになった。
- ・教師の資質改革はまだ始まったばかり。教師が少しずつではあるが、環境を意識するようになった。
- ・振り返りの時に、良かったことや良いところを取り上げるようになった。
- ・環境について話し合う機会になっ

た。
 ・具体的に言ってもらえて方法は見えてきた。
 ・変えようとしたが難しさはあった。(外と室内とのつながり、遊びのつながり、年齢を越えたつながり・・・)
 ・先進校視察もしているの、教師の考え方が少しずつではあるが変わってきた。

<保護者>

・家の人にも見せたくて持ち帰り、保護者も良い反応してくれる。一緒に楽しむことでこちらも楽しい。
 ・4歳：保護者から「廃材まだありますか。」と声がかかるようになった。
 ・0歳：保護者もドキュメンテーションを楽しみに読んでくださる方がいる。
 ・4歳：家庭でも子どもの興味があることを意識してくれるようになった。
 ・地域・保護者の協力は大きい。

②変わらなかった、変わらなかったと感じた理由

・1歳：もっと勉強しないといけない。
 ・4歳：園の行事に対する考え方がまだ今の保育と交わらない。環境は少しずつ変わってきているが、その中にある遊びの様子や子ども達の成長や発達をきちんと見る保育内容や記録の部分が変わらないでいる。
 ・行事の練習が多く追われてしまい、ゆっくりと好きな遊びをする時間がない。
 ・4歳：ドキュメンテーションの内容ではなく、写真だけを見ている保護者もまだいる。

③今はできていないが、今後やってみたいこと

・今日の遊びを明日も続けるための環境。作った物を置いておける場所(作製途中のものもあれば遊びがつながると思うが、食事もするので片付けなくてはならない。いつでも続きができたならもう少し遊び込める。)

・0歳：室内遊具などを使って室内でも体を思いっきり動かして遊ぶことをしてみたい(アスレチックのような空間)。
 ・2歳：一人ひとりの子どものつぶやきを拾って、もっと遊びが広がり、発展していくような保育者の言葉かけをしていきたい。
 ・3歳：年長児クラスが自分たちで釘を打ってイスを作っていたことから、3歳ではあるが、釘を使って製作してみたい。
 ・5歳：現在の保育内容で発表会を披露するように進めたい。
 ・0歳：環境構成、おもちゃづくり。途中入園児が増えると時間が取れない。
 ・1歳：発達に合ったおもちゃの充実、指・手先を使った遊びの充実。少人数でゆったりと遊べる環境づくり。
 ・2歳：3歳と交流を始めた。4、5歳の部屋にも自由に行き来し、遊びを見たり、教えてもらったりと交流を持ちたい。
 ・3歳：遊戯室は異年齢での共通のトピックや人が多く集まることで発展する遊びの場(パブリックスペース)であるが、多くの部屋が隣接する遊戯室の使い方としても、環境設定を考えていきたい。
 4歳：園内でも他のクラスの保育を見てカンファレンスなどをする。
 5歳：個人に注目したドキュメンテーション(ポートフォリオ)の作成。
 ・本園独自の教育カリキュラムの作成。これができればもっと保育の方向性が見えてくる。でもなかなかできない。
 ・公開の時だけになってしまった。
 ・もらった意見を活かせていない。
 ・日々追われてしまい、継続していく難しさを感じる。
 ・遊びをつなげることが難しく、終わったり終わりになっている。切れてしまっている。
 ・作った物をすぐにポイッとする。作った物でもっと遊んでほしい。
 ・作品展だから決まった物を作るのではなく、上手下手よりも子どもの発想で作った物にしていきたい。

公開保育の前後では、次のような変化が報告されています。

子どもの姿では、子ども同士で声をかけ合うなど協力する姿や、準備も子どもが考えながら行うなど、積極的に遊びに向かう姿が見られるようになっています。

自由な遊びの時間を設けたり、素材を自由に選択できるようにしたりと変化させたことで、子ども自身が考え取り組むようになり、大人が考えつかないようなものを作ったり、今までにない発想・発見があったとの意見が多く聞かれました。

子どもを主体とした保育では、一人ひとりの興味・関心に基づき、発達に合った支援を行うため、支援の必要な子にも、自由遊びを取り入れてから、こうしたという思いがでてきたという報告がありました。

職員や園の保育においても、安全は確保しつつも、子どもに一度やらせてみよう、共感しようという気持ちの変化から、言葉がけも変わり、子どもに任せられるようになってきたり、一緒に楽しめるようになってきたといった意見がありました。

今まで以上に子どもの言葉に耳を傾け、子どもの状態をよく見て、深く考えるようになり、その子の発達課題を意識し、子どもに合ったねらいを立てるなど、保育に対する意識が園全体で変わってきたことが分かります。

職員同士でも話し合いが増え、子どもの興味や、遊びの展開などを予測したり、興味が似ている子ども同士をつないだり、より環境構成を考えるようになったとあります。

共通認識ができ、お互いに助け合うようになった、自信を持てるようになったという声もありました。

ドキュメンテーション等可視化の取り組みなどにより、保護者にも発信をする中で、保護者の理解も得られ、楽しいという意見もありました。

逆に変わらなかったことでは、日々の保育を見つめ直す中で、環境等の見直しは行ったが、子どもの興味・関

心から行う保育を行事に活かすところまでは行けなかったことや、記録などの変化が少なかったことなどがあがっていました。

これに対し、今後やってみたいことで、現在の保育内容で(と合った)発表会を披露したり、上手下手よりも子どもの発想で作った物で作品展をしたいとの意見もあり、行事と保育のあり方は多くの園での課題とも言えます。また、遊びを継続するための環境、もっと遊びが広がり発展していくような保育者の言葉かけ、発達に合ったおもちゃの充実、などに取り組みたいという意見があり、継続していく難しさや遊びをつなげることの難しさもありますが、園内でも他クラスの保育を見てカンファレンスをしたいなど、もっと進めていきたいという意見が多く、今後の展開が期待されます。

(3) 公開保育を受けて良かったと感じたこと、良くなかったと感じたこと

<良かったと感じたこと>

- ・振り返る機会、きっかけになった。
- ・自然にしたいことを楽しんでいる。変わってきた。
- ・年長へのあこがれから子どもが強く吸収しており、準備も子どもにまかせてやってみようという気になった。子どもが今興味を持っていることなどに気づきながらできるようになってきた。
- ・0歳:保育者の見る意識が公開保育でより変わった。助言の言葉も細かく意識するようになった。
- ・公開保育が終わった後に、プレッシャーから解放され肩の力が抜けて、そこでカンファレンスでいただいた指摘事項を自分達で振り返りやっけていけている。子どもの姿を見ながら保育していけている。
- ・製作でも去年はきちっとした物を作っていた。今年は何を作ったのか分からない物もあったが、子どもは満足していて、視点が大人と違う。見栄えとか思っていたが、そういうのもありなんだという気づきになった。

- ・全員が〇〇できないといけないことはないと思えるようになった。
- ・0歳:環境を見直し、子どもの発達に合わせた玩具の見直し、保育者の動き、食事の流れなどについて保育士同士で話し合いを重ね、理解し合うことができた。
- ・2歳:試行錯誤しながら4月から行ってきた保育をこれからも進めていけばいいと思えたことが良かった。「これでいいんだ。」と思えた。
- ・3歳:4月から保育を変えてきた。子どもの声を聞いて意識してきたが、どうしていいか分からなかった。間違っていなかった。自信も持てた。子どもにとっての保育を考え、色々な人に相談をして保育を深めることができた。
- ・4歳:保育を変えていこうとする中で公開保育は職員の中にも緊張感や一つの大きなものになったと思う。園外の人達に客観的に保育を見てもらうことは必要だと思った。
- ・5歳:よくなかったと感じることはない。職員達にこの現在の保育でいいという自信がついた。
- ・0歳:公開の時期には愛着・信頼関係もできていたので良かった。職員の意味統一ができた。たくさんの見学者の中でも安心して保育士の元で過ごせたことが分かり、愛着が感じられたことが良かった。
- ・1歳:環境について深く考えられていなかったことに気づいた。環境一つひとつを意識して見直すことができた。担任間で話し合ったり、相談したり、保育について考え直すきっかけになった。
- ・2歳:改めて保育を見直すきっかけとなり、日々の保育を毎日深めるきっかけになった。
- ・3歳:遊戯室の子どもをつないでいくことが意識できていなかった。個々になってしまっていた。環境「いつでも、どこでも、何度でも」廊下、部屋、遊戯室いろいろな使い方をしていきたい。クラス担任だけでなく、より多くの職員で子どもの姿を共有し、環境設定の見直しや遊びの展開についても相談し合ったりする機会も多く持てた。たくさん

指導いただき、一部屋だけでなく隣接した部屋で遊びや子ども達をつなぐ視点を持ち環境設定することも学べた。

- ・4歳:クラスや子どもの様子を以前より担任間で話すことが増えた。クラスの環境について、こまめに変えたり意識するようになった。
- ・5歳:自分の保育やクラスの環境を一から見直す良いきっかけになった。他のクラスとの関わり方について改めて考えさせられた。
- ・何度でも受けたい。公開することで教師自身の力が伸びる。良かった。
- ・自分にとっては学びになった。自分の課題や子どもの姿(「先生、先生」と何度も呼ぶことなど)は常に頭にある。
- ・振り返る機会になった。不安もあり迷っていたが、意見をもらえて良かった。
- ・公開保育の中で子どもの言葉を拾ってもらい、書いてもらったことが良かった。「こんな子だったのか」と気づくことがあった。子どもの違う一面が見られた。また見られる良い機会だった。保護者にもその様子を返すことができた。
- ・マンネリになってしまいがちなので、いろいろな意見をもらい刺激を受けると変わっていける。

<良くなかったと感じたこと>

- ・公開だと構えてしまう。2回目のプレッシャーや緊張もあった。
- ・緊張して自分のことで精いっぱいだった。
- ・参加者の意見をもっと聞きたい。参加者も実践者も一緒にディスカッションできると良い。どちらも思いや意図が言い合えると良いと感じた。

公開保育を受けて、良かったと感じたことでは、公開保育の前後での変化で示された、「準備も子どもにまかせてやってみよう。」という気になったり、子どもの興味に気づいたり、「全員が〇〇できないといけないことはない」と思えるようになったり、といった保育者の意識や環境を見直すことができたという意見が寄せられました。

また、試行錯誤しながら進めてきた保育を、園外の人に見てもらい意見をもらうことで、「これでいいんだと思えて自信が持てた。」「不安もあり迷っていたが、意見をもらえて良かった。」といった意見をいただきました。

また、今年度から公開保育の際に参加者に子どもの言葉や姿を記録してもらって公開園にお渡ししていますが、これに対して、「子どもの違う一面が見られて良かった、保護者にもその様子を返すことができた。」という意見がありました。

振り返る機会となり、深く考えたり、気づいたりできたことなどが多くあげられ、「何度でも受けたい。公開することで教師自身の力が伸びる。」「良くなかったと感じることはない。職員達に自信がついた。」と公開保育の良い効果を実感されている意見をいただきました。

良くなかったことでは、プレッシャー・緊張という言葉が出てきました。しかし、良かったことの中で、「公開保育終了後プレッシャーから解放され、カンファレンスでの指摘事項を振り返り、子どもの姿を見ながら保育している。」といった意見があり、公開時には緊張で自分のことで精いっぱいであっても、その後、意見を振り返ることで、保育の質の向上につながっていることが見えてきます。

さらに、「参加者の意見をもっと聞きたい。参加者も実践者も一緒にディスカッションできると良い。」とさらに内容を深めていきたいという意見もいただいています。

(4) 公開保育を実施するにあたっての乳幼児教育コーディネーターや事務局（センター）のバックアップの体制や方法について

- ・舞鶴市からもたくさんの職員に来てもらい嬉しかった。
- ・指導案の書き方が分からず困った。
- ・乳幼児教育コーディネーターに2回来てもらい、環境の配置や公開保育についての傾向と対策を相談した。
- ・指導案について分からないことも多く、舞鶴市主催で公開園対象に指導案やドキュメンテーション作成のポイントの勉強会を行ってくれ、そこにクラス担任の代表が参加した。
- ・公開保育の前に何度か話を聞いてもらうことができ、良いアドバイスももらえて安心して臨むことができたのでありがたかった。
- ・乳幼児教育コーディネーターに来てもらい、客観的に見てもらって、環境設定、指導案の書き方を教えてもらい助かった。肯定的に言ってもらえ、自信もついた。
- ・事前に何回も研修を開いてくれ、学ばせてもらってありがとうございました。
- ・ご指導ありがとうございました。学んだことを活かしてがんばりたい。本当にお世話になりました。
- ・新しく保育を変えていくと漠然としたことしか分からず、研修に行き、知識として学んでも実践できずにいた中、園内でも「これでよいのか」「どうすれば？」と答えが出ないままだったことが、コーディネーターを始め他の方々にも背中を押していただけて何よりも嬉しく安心できた。
- ・ドキュメンテーションを見てもらって意見がほしい。違う視点で見てほしい。
- ・公開の時期が6・7月は準備期間も短く大変だが、早い時期に見てもらって、改善や充実につなげる方が良い。
- ・公開の方法で、どう変わってきたか？どう学んできたか？が見えにくいので、1園モデル園を決めて、春

と秋とに公開保育をすると変化も見えるのでは。

- ・いつも細やかなアドバイスをくださりありがとうございます。
- ・事前勉強会があり、指導案の書き方を教えてもらって、昨年分からなかったことが理解できた（ねらいに対する評価の観点）。そういうところを教えてもらえるとうれしい。
- ・市全体で質の向上に取り組めることはありがたい。ただ管理者としては、時間の確保に苦慮している。質を高めていかないといけないという思いもあるが、できない環境などもあり、どんな形で入ってもらうのがよいのかこれから先考えていく必要もある。

公開保育を行っていただくにあたり、公開園に乳幼児教育コーディネーターがご説明に伺わせていただいたり、市主催で事前勉強会などを開催したり、事後の振り返りをしたりと、質の向上に取り組まれている園のお手伝いをさせていただきます。

なかなか体制も整わず、回数も限られたものとなりましたが、役に立ったとお声をいただき、大変嬉しく思っております。

ご意見にもありますが、全国的な保育者不足の中、時間の確保が難しく、どのように研修を行うのがよいか、検討が必要です。

本市では、現在参加型の研修を行っておりますが、より各園が行いやすい園内研修の実施支援にも努めてまいります。

今年度は、記録やドキュメンテーションを利用したグループワーク研修においても、園内研修を見据え、その中心となる園リーダー（副園長・主任等）対象の研修を実施しました。

団塊世代の退職等、保育者間での経験の伝承が難しくなってもおり、記録を元に保育者の関わりについて話し合う園内研修は大変重要な役割を担っています。

本市では、園内研修のお手伝いに、コーディネーター等が事例となる記録を持って園に伺い、ファシリテーター役を行うといった活動も行っております。

(5) その他

- ・他の園を見るのがとても大事。公開保育の日程を知らないことあり、行きたかった。
- ・園長と職員とが園内で保育や考え方を統一しないといけない。
- ・(乳児担当) 今まで他のクラスを見ることができてなかった。幼児の子ども達の成長や先生の姿を見て、すごいと感じた。自分達に同じことができるのかといった不安もある。どうしたらあんな子どもの姿になるのか。
- ・遊びを広げていくことは難しい。発展していく場合もあれば、そうならないこともある。保育者の質が問われると感じる。
- ・他園の公開保育の様子を話したり、年長年中のクラスがどんな遊びに興味を持っていてどのような遊び・製作をしているのか聞いたり、自分のクラスと共通の遊びがあれば遊びが広がるように行って一緒に遊んだりした。
- ・(3歳) 誕生会でエアギターやドラムなど楽器を使って合奏を披露したところ、年長児がトランペットを作り参加した。
- ・(主任) 記録が課題。保育や子どもを見る目を育てるためにどうしていいか迷っている。
- ・今まで学んできた経験もあるし、他園の公開を見て学んだ成果もある。

公開をきっかけに日々の保育を見直す中で、遊び・保育の展開や、記録など、質の向上のためにどうすればよいか迷い・悩む姿が見えてきます。

一方で、他クラスや他園の保育を見て学ぶ効果についての意見が複数園から出ていました。

講師からの助言にも、保育に正解はなく試行錯誤することが大事とありました。様々な文化を持つ園が共に学ぶ合うことで、いろいろな保育を見て、その中から自園や自身の保育のヒントが得られることから、公開保育を中心とした公私園校種を越えて共に学ぶ研修の意義があります。

乳幼児教育ビジョン推進事業報告会の参加者にアンケートを実施。

※報告会 P.24参照

参加者中アンケート対象者 146人

アンケート回答数 68

回答率 47%

私立保育園：私立保育所20人、公立保育所22人、私立幼稚園8人、公立幼稚園3人、小学校8人、無記名7人

(1) 公開保育・授業の有効性

<公開園の姿を見て>

- ・報告されたどの園も公開保育をして、また向かう過程で変わっていかれたのが伝わってきた。また変わろうと保育に真摯に向き合っておられ素晴らしいと感じた。
- ・環境構成の工夫の例がいろいろ見られて、もっと各園の取り組みを見てみたいと思った。
- ・どの園も公開することによって、園での保育者間の話し合いや子どもを見る時の視点の共有する機会を多く持ち、質の向上につながっていることが分かった。
- ・各園の公開保育の様子を見て、思わずいいな、楽しそうだなと思った。きっと子どもも同じ思いだと思う。参考にして保育にあたりたい。
- ・子どもの主体性を育てるために、どう子どもと関わったらいいのか悩み、今日の私の保育はどうだったか、明日はどうしよう…と考えることが多くなった。いろんな園の取り組みを知る機会ができ、良い勉強をさせてもらった。
- ・自分の園ではやっていない遊びや、取り入れたい環境があって参考になった。
- ・他園の様子を見させていただくことで自分の保育などを振り返る機会となった。されていることをそのまま取り入れるのではなく、自分の園に合ったやり方で、子どもたちと考えていけたらと思った。毎日がわくわくするようなじっくり考えられるような生活、遊びがしたい。
- ・公開保育後の園の変化もたくさん聞けてよかった。公開保育を受けて

終わりではなく、学んだことをその後いかに活かすかも公開保育の大切な意義の一つだと感じた。

- ・どの園も公開保育後、いろいろな課題と向き合うよいきっかけになったと思う。今まで通りでなくていいこと、今までとは違うことをするのはとても大変だが、変えていくこと、変わることを楽しんでいける自分になれるといいなと思う。行事に追われることもあるが、子どもたちの気持ちを一番に大切にしていきたい。

公開園にとっては、公開がゴールではなく、これをきっかけに、話し合いが増え、課題に取り組み、より保育の質向上に取り組みされる姿が見えてきました。またその姿を実際に見せていただくことで、参加者にとっても、自分の保育を振り返るきっかけになっていることが伺えます。

「されていることをそのまま取り入れるのではなく、自分の園に合ったやり方で、子どもたちと考えていけたらと思った。」という意見もあるように、全園で全く同じことをしようということではなく、そんな考え方ややり方もあったのかという引き出しを増やすことをねらいとしています。

全国的にも、保育者不足などもあり、若手の育成に悩む園が見受けられます。1園だけでなく、市全体で様々な園・校が他園・校の取り組みを見て共に学ぶことで、自分の経験だけでは思いつかなかった工夫などを知ることができ、大きな枠の中での知識・経験の共有が図れる効果があります。

以下に、参加者から学びとして挙げられた意見をご紹介します。

<保育について>

【保育所・幼稚園】

- ・子どもの声を聞いて、それを保育に活かしていくことが大事。子どもの「したい」と思うことが大事だと改めて感じた。
- ・報告を受け、保育に終わりがいいこと、通過点であること、遊びをどんどん広げて発展できるように、子どもの興味関心をしっかり読み取り、関わっていきなさいと思った。

・環境が子どもの遊び、学びにつながっていくのだと改めて感じた。
 ・子どもをみる視点や保育士のかかわり、言葉かけの大切さを改めて感じた。またその難しさも感じ、より学んでいかなければと思った。
 ・保育士の視点ではなく、子どもの興味関心などに注目して保育を考えていかなければならないと思った。
 ・子どもを主体とした保育では、時間や空間を制限せずに明日も続けられる環境と十分な時間、より興味や探求が深まるフィールドワーク、ドキュメンテーションによる子どもの育ちや学びの可視化の大切さを再度頭に入れ、保育していこうと思った。

<ドキュメンテーション(可視化)>

・保育士ではないので、子どもたちと直接かかわることがあまりないが、ドキュメンテーションにより、子どもの主体性と自己啓発につながると思う。
 ・まだまだ子どもの遊び、状況をしっかりと見とれてないので、ドキュメンテーションすることで学んでいきたい。

(2) 保幼小連携、保幼小中連携

校区内に保育所・幼稚園がない学校もあり、今年度から校区の園との連携とは別に、主に小学校の生活科の授業を中心に連携する協力校・園を指定し、保幼小連携研修を行ってきました。また、園・校全体での取り組みとなるよう保幼小接続カリキュラムの研究や、0歳～15歳を見通した教育の充実を図るため、保幼小中連携の研修も行ってきました。P.34参照

こうした取り組みにより、今年度の報告会には、小学校からもたくさんの先生にご参加いただきました。

これまでよりさらに、子どもの育ちや学びの内容に言及されているご意見が増え、さらには「保幼での遊びの中で追及していることが、小中学校で追及しようとしていることと、まさに合致していることを感じた。」といった意見が寄せられ、より乳幼児教育への理解が進み、0歳から15歳までの切れ目のない教育の充実の重要性が伝わったのではないかと感じています。

<保幼小連携、保幼小中連携>

【保育所・幼稚園】

・年長の担任にならないと話が分からなかったり、意識できなかったりするの、良い機会だった。
 ・実際に公開授業をしてとても勉強になった。
 ・自園の中だけでなく、保幼小全ての乳幼児教育にかかわる方たちが同じところを目指して同じ視点で子どもたちのことを考えているんだと感じた。
 ・公開保育・連携活動をするにあたって、指導案から環境構成など、大変なことはたくさんあるが、改めて教師間での気付きがあったり、信頼が深められたりするので、チームワーク向上につながりよい機会になると感じた。

【小学校】

・保幼小の先生方からそれぞれの取り組みや変容の姿を聞くことができて参考になった。互恵性の大切さを改めて理解することができた。何よりも指導者の子ども観、教育観なりを共有することが大切であると思った。
 ・連携の大切さが改めてわかった。自身が高学年担任が多く、「連携＝小中連携」のイメージが強かったが、保幼からあがってきた子を小学校6年間でしっかり育て、中学校につなげたいと思った。そのためにも特に1年生段階の生活科を柱として、環境に通じた遊びや体験からの学び、気づきを大切にしていきたい。
 ・どの発表を聞いても、慣れるということだけでなく、何を目的に接続していくのかという視点がはっきりしていたように思う。小学校の生活科という授業の特性の中で、子どもがどんな力をつけるのかという内容がよく伝わってきた。回数を重ね少しずつ取り組みが成熟しているのではないかと。
 ・「主体的で協働的な学び」を授業の中でどう創り上げるかを、本校では研究の柱にしている。各園の報告を聞き、遊びの中で追及しておられることが、小・中学校で追及しようとしていることと、まさに合致していることを感じた。

・子どもが変わっていく(成長する)姿が多くみられた報告があり、続けることの大切さを感じた。
 ・小1プロブレム解消のため、この保幼小接続はとてもよいことだと思った。実際に交流をすることで、両方の子どもが成長するとわかった。

【無記名】

・各園の保育、また保幼小連携の保育士・教師の立場から見た感想などをうかがうことができよかった。
 ・保幼小の連携では〇〇してもらった姿勢ではなく、一緒に〇〇しようという姿勢が、互恵性につなげるために大切なことだと気付かされた。保幼小中の継続したかかわりが子どもの学びに重要だとわかった。他園の様子や取り組みを見ることができ刺激になった。

(3) 報告会の効果

本市では毎年度、各研修等事業の実施内容や、公開保育・授業をいただいた各園・校の取り組みなどを紹介し、情報や学びを共有するとともに、1年の事業を振り返り、学びを深めることを目的として、報告会を開催しています。

公開保育・授業は、平日に行うため、保育や授業があって参加できなかった人も多くおられます。土曜日の午後に開催する報告会には、より多くの方々に参加いただくことができます。

研修に参加した方から、各園校において情報共有が図られています。写真等も見ながら実践者や講師の話を直接聞くことで、その内容がより鮮明になり、理解につながっているようです。今回は、実践園から公開のその後の様子なども詳しく報告いただくことができ、また各園・校からの報告と合わせて、講師からコメントもいただいたことで、より変化や効果が実感しやすかったようです。

実際に取り組まれた先生たちからの報告を聞くことができ、多くの参加者が一堂に会し、事業全体が見える報告会は、公私・園校種を越えて共に

学が本事業において、理解を深め、同僚性を高めるなど、大変重要な役割を果たしています。

・公開保育をされた園の学んだ内容やその後の変化を聞くことができ、その内容が具体的でイメージしやすく、自分の保育に置き換えて何ができるだろうと考えることができました。特にさくら保育園の公開保育後の発表が印象的である。

・どの園も子どもを主体とした保育を実施されていて、とても勉強になった。特に、さくら保育園の公開保育を受けた後の保育(お店屋さん)が印象的だった。子ども発信で…ということがとても大切だと感じた。

・公開保育を見に行った園だけでなく、いろいろな園の取り組みが分かって良かった。公開保育後の変化等も感じられ大変参考になった。

・分かりやすく、持ち帰りニュースレターで全職員に伝えたい。

・園としての反省や取り組んだことを素直に発表されていた姿があった。どの園も課題を見つめて取り組んだこと、それぞれに研究されていた。

・普段の保育から、こちらが指示するのではなく、子どもの主体性を意識しているが、他園の活動内容を見せていただいて、まだまだダイナミックさが足りないなど感じた。もっともっと子どもたちの遊びが広がるよう、環境設定を工夫したり、しっかりと見守っていきたい。

・各園、試行錯誤しながら取り組まれている様子が伝わってきた。いろいろな思いや意図があり、その中から子どもの姿と照らし合わせ、保育していくことの重要性を感じた。

・全部の研修に参加することは無理だが、たくさんの園の発表を聞くことができ、自分の保育も振り返ることができよかった。

・公開保育のその後を聞く機会というのは、なかなかなかったので、聞くことができ勉強になった。

・公開保育で様々な園の様子やその後の様子、変化が聞けてよかった。私自身0歳しか担任をしたことがなく、保育経験も少ないので、他園の様子やレジュメで0歳児の保育の

様子を知ることができ、今後の保育に活かしていきたい。

・公開保育等に行けなかった園の発表を聞くことができとても勉強になった。行かせてもらえたところのその後の姿を聞くことができよかった。

・資料(研修ニュースレター)を見ながら報告を聞かせていただき、他園の活動等が一部分ではあるが、知ることができ、もっと他の園・先生がどんな風な保育をされているのかが知りたくなった。ビデオ等動画もあればよいかもと思った。

・スライドショーなどでわかりやすく説明されていてよかった。

・公開保育の報告や活動内容を聞くことですごく勉強になった。展示物(各保育所のドキュメンテーション)を拝見する中で、舞鶴市の保育所が一つの流れに沿って、子どもの育ちを見ていっているんだと改めて認識した。実際に公開保育を見学させてもらうことはなく、支援児担当ということもあり、取り組みに対する認識、勉強不足を感じた。全ての年齢の報告書が見れてわかりやすくてよかった。

・さくら保育園の報告に興味を持った。毎日(子どもが)やりたいことを自ら見つけ、継続して楽しんでいることが伝わった。

・課題・成果がまとめてあり、自園でも参考にできるものとなっていた。他園の活動を知ることで、自園でもいっそうがんばろうというモチベーションがあがった。

・参加することができなかった研修などの内容も知ることができた。

・他園での公開保育やその後の遊びの様子を知ることができ、行事へのつながりも勉強になった。

・実践を元に報告していただき、わかりやすく勉強になった。子どもの姿から、子どもを主体とした保育の大切さを実感し、難しさも感じ、まずはやってみることの大切さを改めて思った。

・自分が参加していない研修がこの報告を聞いてよくわかった。様々な取り組みや準備が行われており、舞鶴市のこの事業の素晴らしさを改めて感じた。

・こどの園もドキュメンテーションや公開保育を見るのが楽しみ。報告会でたくさんのドキュメンテーションを見ることができ勉強になった。

・子どもを主体とした保育研修では、各幼稚園・保育所がそれぞれとても素晴らしい保育をされているのがよくわかった。いただいた資料(研修ニュースレター)を参考にして今後の保育に役立てたい。

・保育研修報告で、どの園も独自のやり方がある中で、変えよう、変わろうとされていることがすごいなと思いい、特にさくら保育園は園長自身が変わられたことが素晴らしいと思った。

・事業報告を聞き、行事などある中でも園内研修をされ、職員間の連携を図られているとのこと、実践、その重要性を改めて感じ、チャレンジする意欲をもって日々保育したいと思った。

・報告会に参加することにより、1年間の全ての講演、研修会に参加できたくらい、関連性がよくわかり意義あるものだった。

・舞鶴市乳幼児教育ビジョン推進事業の全体像が明確に分かった。さくら保育園の公開保育後の報告が素晴らしかった。

・実際に公開された園の先生方から話を聞くことができ、今後どのように保育を進めていけばいいのか、園としての取り組みや自分の保育を見直すことができました。さくら保育園の公開後の遊びの様子を見せていただけたことがとてもよかった。公開保育に向けてではなく、あくまでも通過点とすることを、今後自分自身の中にしっかりと刻んでおきたい。

・公開後の子どもの姿や今後の課題などを聞くことができよかった。さくら保育園の先生たちが「楽しい」と楽しみながら保育をされていることが印象的であり、園長先生自身も、子どもの姿に目を向け、楽しまれているところもすごいなと思った。

・各園の公開保育からの報告がわかりやすく、今後の参考や反省を新たにすることができた。また遊びを継続させていく、楽しみながら保育を作っていくことについて、もう一度考えて

いくことができた。園内の共通理解や共に考え合って保育を作っていくことをもっと時間を工夫して大切にしていきたい。この報告会に小学校の先生方が来られてるのは大変うれしいことだと感じた。

・年間の事業内容やねらいが理解できた。再度確認ができた。ニュースレターをもらえてよかった。

・他園などの取り組みを聞けることは少ないのでよい機会だった。

・事業報告を受け、今年度してこられたことがよくわかった。特に公開保育後されている内容については、自園でも展開していくようにしなければいけないと思った。

・公開保育は通過点であるとおっしゃった園長先生が、その後として園の様子を伝えてくださり、子どもたちの楽しい様子が伝わってきた。園の先生方も環境を整え、子どもの育ち・発達など、職員間で話し合われたことと思う。保育が発展していることが素晴らしいと思う。

(4) 園内研修の重要性

今年度、保育・教育の質の向上に取り組む中で、公私・園校種を越えて共に学ぶことと共にもう一つ重要視したのが園内研修です。

学び合ったことを自園の実践に活かすためには、園内での協議が欠かせません。また、全国的な保育者不足の中、研修のための時間確保も困難になってきているとの意見もいただいています。

参加者アンケートにおいても、次のような意見がありました。

・いろいろな取り組みがあることは分かったが、園の中でもっと報告を聞きたいと思った。

・子どもが遊びを進めていく中で、ぶつ切りになるのではなく、明日もまた続けられるという環境構成の重要性について改めて感じる事ができた。自分の質を向上していくためにも、園での研修の必要性を感じた。

研修の中の講義やグループワークでも園内研修を取り上げましたが、報告会でも北野先生から園内研修について講演していただきました。

園内研修の重要性に気づき、取り組まれている中で、その進め方の難しさを感じられていることが分かります。

今後も、園内研修に役立つ講義やファシリテーターとなる園リーダー等の研修を実施していきたいと思えます。

また、乳幼児教育コーディネーターを中心に、園内研修の題材の提供や、園内研修での進行のお手伝い（ファシリテーター役）など進めてまいります。

<講演「乳幼児教育の質向上のための園内研修の方法～ドキュメンテーションを活用して～」及び講評について>

【保育所・幼稚園】

・園内研修の持ち方について難しさを感じているので、大変参考になった。なかなかアクティブにならない。同僚関係の難しさも思う。少しずつ改善させていけるとよいと思った。

・北野先生の話がよかった。子どもも大事だけど、大人も大切にしないといけないこと。

・自分の視点や捉え方など学び続けていく必要性を感じた。実際にやってみることの大切さを学んだ。

・他園で良いと感じたことは、自園も取り入れていきたい。

・新しいことにチャレンジしてみることで、その言葉が心に響いた。

・保育士の置かれている立場、精神的なものもまさに的確で納得しながら聞かせてもらった。

・園内研修を充実させていきたいと思った。今、語り合うことを大切にしていこうとしているところだが、できることから取り組んでいく。そこからよいんだと嬉しく思った。

・北野先生の幼児教育の落とし穴を聞いて大きく共感した。施設として変わるため、自分のこと、園長のこと、保育士のこと、要求や期待を持ちながらいたことを気付かされた。実際のところ、園長も私もつづれそうライ

ンギリギリでやっていることに気付いた。子どもたちのためにも長い目で見つつ、温かい場を大切にしたい。

・実践を振り返り、向上していくことの大切さを改めて感じた。どんどんいろんなことに挑戦し、実践していかなければならないと思った。

・子どもたちにとっても、保育者にとっても、振り返ることが大切であると思った。

・語り合うことで、保育に対する視点に様々な角度があり、勉強になっている。それを保育に活かしていくことが次の課題かと感じた。

・記録により情報を共有、それにより振り返りができることは、子どもたちによりよい援助ができること。

・研修の大切さを感じた。

・園内研修の間も、他の先生のドキュメンテーションの意見交換をして、とても勉強になり、いろんな発見があった。

・いただいた資料(研修ニュースレター)にたくさんの助言があり、参考にさせていただきたい。研修は受動的でなく能動的にという言葉を大切に参加していきたい。

・子どもの主体性の発揮＝保育者の主体性の発揮、の難しさ。先生のお話はとてもわかりやすく引き込まれた。報告会の解説もわかりやすく、課題に対する助言など聞かせていただき良かった。遊びの継続の話など、もっと聞きたかった。

・子どもの主体性はもちろんだが、自己発揮することも大切だと学んだ。

・できる限りの研修に参加して自己研鑽していけるように努力していきたい。

・「研修で学んだことが実際の保育でどれだけフィードバックしているかが大切」ということを学び、子どものかかわり方に変化が表れているか、どれだけ生かされているのかを意識し、保育していきたい。

・日々の保育でいっぱいいっぱい、職員も少ないため時間や人員に余裕がなく、研修に参加しづらい状況だと痛感した。園内研修も大切なことがよくわかった。

・変化させるのは怖い、変えたい

のか変えたくないのか思いを明確にして、思い切って変えることも大切。保護者の質も変わってきているので、その時代にあった、質に合った保育・行事にしていかなければいけないと感じた。

・1つの園の報告後に講評いただいたことがすごくわかりやすく、園内研修の大切さがより詳しくわかり良かった。

・「子どもを主体とした行事の見直し」というところで、『変化を楽しむ』『今まで通りでなくてもいいよね』という言葉が印象的だった。変化が楽しめる…ゆとりある気持ちで子どもとかかわりたいと思う。

・事業報告だけでなく北野先生のお話が聞けて良かった。先生のお話を聞くと、励まされているような気がして、また頑張らないと思う。

・職員一人ひとりが自己発揮できること、尊重し合うことの大切さを改めて感じた。そのような職場が増えれば、もっと楽しみながら仕事ができるような気がする。

・園内研修というかしこまった形ではなく、保育を語り合い、お互いの考えや個性を認め合い、保育に活かしながら、チームとして保育力を高め合っていけるような形を見つけていきたい。

【小学校】

・子どもの姿を捉えるためのドキュメンテーションの大切さ、教育は実践であることを改めて教えていただいた。

・「やりがいある仕事の落とし穴」が心に残った。まずは自身と同僚の心身を気遣っていきたい。

・実践からの研修の重要性を感じる。主体性を育むためには、指導者の主体性が重要であることを考えれば、今回のような研修は大変充実したものになったと思う。

・子どもが自ら学んだり感じたりすることが大切で、様々な準備も含めて、活動の場を設定することは難しいのだが、主体的であることを重視すると場を整えすぎないことも重要だと感じる。自然や自分の生活環境の中から見つけて学んで使いこな

す、まさにアクティブラーニングの世界であると感じた。

・園内研修の充実の方策、とりわけ行動目標をベースにということは、小学校でも重視したいこと。

・研修のあり方について考えさせられ、保育だけでなく、小学校教育の現場でも同様のことが言えると感じ、同僚を信頼し能動的な研修を進めていきたい。

・記録を取ることの意義を教えていただき、専門性を高めていくために必要なことであると感じた。

・先生方がされた内容の講評があったことで、今後の教育に取り入れやすいものであると思った。とてもわかりやすかった。

【無記名】

・とてもよかった。先生の話は同感できることばかりだった。

・いつもながら先生の話には感動する。少しでも園が良くなるよう努めていきたい。

・保育の質の向上について、学ぶことがたくさんあった。もう少しゆとり伺いたかった。

(5) 研修の参加状況

<平成28年度研修全体について>
今年度参加した研修

1. 子どもを主体とした保育:公開保育・カンファレンス

1回:23人 2回:11人 3回:2人

2. 子どもを主体とした保育:グループワーク

1回:26人 2回:5人

3. 保幼小(中)連携

1回:9人 2回:2人 3回:6人

4. 乳幼児教育ビジョン講演会

1回:23人 2回:9人 3回:1人

回答数が少ない中ではありますが、連続受講者より、1回のみ受講者が多い結果となっています。

(6) 研修の効果

<研修を受けて自分の保育・教育に活かしたことがあるか>

1.ある:36人

【保育所・幼稚園】

・園内研修で報告し、または報告を受け、自分たちの保育の中で取り入れられることがないか見直すことがないか考えるきっかけとした。

・保育、子どもの見方を一方向からではなく違った角度からも見ようと思えるようになってきたと思う。

・ドキュメンテーションを書いたことがあるが、頭では何を書いてよいのか分かっているが、いざ書いてみると何を伝えたいのかわからなくなるところが問題。

・子どもを主体とした保育を心がけ、子どもの興味・関心がもてる遊び、声かけをしていけるように心がけたが、まだ難しさもあり、課題もある。子どもを見る視点が変わってきた。

・ドキュメンテーションを書くにあたって、自分の保育を一から見直すことができたと同時に、保育者間での保育についての話し合い、見直しの時間が多くとれた。

・子どもの表情や言葉をよく見て、聞いて、保育が行えるようになってきた。

・グループワークを園内研修として取り入れた。続けることを大切にしていきたい。

・小グループで話し合うと話が深まっていく。もっと時間を見つけてやっていきたい。

・保育室の環境は大変参考になり、子どもの使うものの工夫においては意味をもって準備につなげられるものもあった。視覚支援、一日の生活の流れ、子どもが使う道具の置き方など。

・子どもを見る視点が変わったように思う。一緒に子どもに対する言葉かけを考えるようになった。

・(他園がしていた)時系列に沿ったドキュメンテーションが流れもわかりやすいと感じたので、自分のドキュメンテーションにも活かした。

・保幼小連携では、実際に実践シートを書いて、新たに気付きがあった。
 ・私は補助という立場であるので、主となる保育士の先生が日々研修会で学ばれたことを保育に活かされていることを感じている。その中でポイントを話していただいたり、時にはちょっと突っ込んだ話を聞かせていただいたりして、その伝えていただいたことを子どもに返せるようにしていきたい。
 ・子どもと保育士だけではなく、保護者支援を行いながら、子どもの生きる力を育てていきたい。
 ・子どもの試行錯誤したい思いを受け止め、子どもが遊びたい時に自由に使えるように、興味に合わせコーナーや道具を設置するようにした。神戸大付属幼稚園での研修で、コーナーに関連するものが提示されており、自園でもやっている。子どももそれを見ては、「〇〇って書いてある！ やってみよ。」など、遊びにも取り入れる姿が出てきている。
 ・カンファレンスで北野先生が「こうしたらもっと良くなったかも」とおっしゃられたことを、自分のクラスで年齢発達に合わせてアレンジして取り入れたり、もっと子どもの姿に注目し、日々の保育のもっていき方を考え、担任間で話し合う機会を多く持つことが増えた。
 ・公開保育から遊びの動線の大切さを知り、園で子どもが遊び込める環境ができていないかを見直し、課題点は改善できるよう環境の再構築をするようになった。ドキュメンテーションも、こま切れではなく流れを意識したり、(他園がしていた)10の視点から見て書いたりしている。
 ・危険な行為でない限り子どもの遊びを制限しない。子どもがうまくいっていない時の記録を残すこと。子どもの成長した部分に目がいきがちであった。長期的な目で見ると、今日うまくいっていないことが、数ヵ月後解決することがあり後悔したのでこれから実践したい。
 ・公開保育でうかがったことを元に園内環境を整えた。
 ・公開で助言いただいたパラレル

トークを心がけている。
 ・年齢に合った環境を見直す。
 ・したこと、できあがったものが最終ではなく、そこに行きつくまでの過程が大事であることを改めて感じ、しっかりと振り返りをする中で、次の交流でどうしようかを意識して取り組むことができた。
 ・遊びと遊びをつなぐ環境構成の仕方を職員間で常に考えていくようになった。思うようにいかないこともあるが、話し合える考え合えることが大切だと感じた。
 ・公開保育に参加したことで、遊びの広げ方の選択肢が増え、自分自身の考え方もほぐれ、こんなこともやってみよう、やってみたいと思えるようになった。
 ・保育室の環境構成も考え改善している。子どもの姿に応じてやりたいと思える遊びの用具の準備、夢中になって遊べる空間づくりなど意識できるようになった。遊びと遊び、子どもと子どもをつなげられる環境を考えたい。
 ・園全体で遊びをもう一度見直したが、まだまだ遊びの中でイメージを広げられることが少なく、同じことの繰り返しのように思う。環境設定ができていない。

研修で学んだことを自園で実際におこなってみている姿が見られます。
 環境構成や言葉かけなどにより一層気を配り、子どもの姿もこれまでよりよく見えるようになっていきます。
 また職員間での話し合いが増えたり、実際に園内研修を行ったりという意見もありました。

【小学校】
 ・子どもの姿を捉える視点を明確にして、教育実践を行うことができた。
 ・連携活動を行う中で相手を思いやれるようになった。ペアを固定していたことが良かった。環境の設定ができなかった。連携する園がそれぞれ離れていることや、天候のことを考えると、小学校の体育館以外考えることができなかった。体育館の中での場の設定については考えられた。

・年間を通して連携園と交流させていただき、大きく前進した1年だった。ただ、1、2年担任に任せる形になり、「主体的で協働的な活動」「互恵性のある活動」を追求していくと同時に、学校全体で「なぜ連携するのか」を再度協議し、単に「生活科の取り組み」ではない、小中連携ともつながる筋の通ったものにしていきたい。
 ・子どもの姿を可視化し、それを通信として学級の子もたちに提示した。他の職員にも見せることができた。子どもの気持ちを感じた活動はまだまだ十分ではない。
 ・保小のつながりを意識した交流会ができた。記録不足であった。子どもの会話、表情、発言を記録しておくことで、子どもたちの学びが見えけると分かった。

【無記名】
 ・園内研修の活用につながった。記録・ドキュメンテーションなどを互いに読み込み、意見交流ができ保育につなげていった。

連携協力校・園を設定し、年間を通じて、計画・実践・振り返りの研修を行ったことで、小学校の先生達も乳幼児期の理解が進み、保幼小連携の取り組みも大きく前進したと感じていただいたようです。

研修では、子どもたちの言動を元に、その中で子どもたちが気付いたことや学んだことなどを可視化する「記録」についても学んだことで、より子どもの学びを感じたり、活用して共有した姿などがありました。

また、担当者だけでなく、学校全体で「なぜ連携するのか」を協議し、小中連携ともつながる筋の通ったものにしていきたい、というようなより深い学びへとつながるご意見もいただきました。

<子どもや保護者の変化・反応等エピソード>

『子ども』

【保育所・幼稚園】

・遊びの振り返りをする中で、「次は〇〇したい」というような声が聞こえてきた。

・(保育者が)「なんでかな？」とよく尋ねるようになったのか、その言葉をかける前に「なんでやるな？」と(子どもが)少し考えてから自分なりの考えを話してくれた。

・子どもが「先生、〇〇って書いてある」や、クラスで興味のあることについての発見や気づきなどを伝えてくれることが増えた。

・よく集中して遊び込むようになった。

・子どもの姿や言葉から保育をする中で、保育者からの問いかけにより先生に思いや気づいたことを伝えてくれる姿が増えた。ドキュメンテーションを見て、子ども同士、保育者と子ども、保護者と子どもの会話が增えた。

・普段好きな遊びが違って、遊ぶことの少ない子ども同士がよく遊んでいた。

・遊びが続いたり、一つひとつのコーナーで集中する姿が増えた。

・連携活動を通して何度も学校へ行ったことで、年長児は安心して就学を迎えられるようになった。

・年中と年長とが遊びを共有する場が増え、年中が年少児の保育室を訪れたり、年中児の遊びに参加する等、異年齢児のかかわり・つながりが深まってきている。

・保育室(廊下)に子どもの姿に応じた遊びのコーナーを設定することで、保育室の中で安心して夢中になって遊びを楽しむ姿があった。子ども同士のつながりも以前より広がった。

【小学校】

・園児と共同作成したものをプレゼントしたとき、「あげたい」から「自分が欲しいくらいのもを一緒に作れてうれしい。」に

・周りの子どもたちを見本にしなが

成長できた。自分が感じたことを素直に表現できていた。

・児童が自分の思いや願いを実現するために、考える場面が多く見られた。

研修で受けた学びを自園でも実践したことにより、さまざまな変化を感じておられます。

子どもでは、自ら、〇〇したいと言ったり、考えたり、発見・気づき・思い・考えなどを発信する姿が見られるようになったとのご意見がありました。子どもが実際に主体的になっていく様子がうかがえます。

また集中力が高まったり、子ども同士のつながりが広がったりといった姿も見られ、学びに向かう力が育まれています。

小学校においても、同じように子ども自らが考え表現する姿が見られます。周りの子どもの姿から吸収して成長していたりと、学びが広がっている様子がうかがえます。

『保護者』

・子どもの発達や様子がよくわかりうれしと言葉をいただく。

・時系列に沿ったドキュメンテーションを見て、保育ではつながりを意識していること等を少しずつ理解してくれているように感じる。

・保護者とは笑顔で対応することで、保護者の方から話をしたい、聞いてほしいと思えるように接している。そこから、子どもの見えなかった部分が見えてくる、保護者も一緒に楽しみたいという気持ちを持ってくれ、それが私自身の励みともなっていく。

・ドキュメンテーションを見て保護者から声をかけていただき、子どもの学びや育ちを共有するツールともなっている。

・連携活動を通して何度も学校に行き、年長児が安心して就学を迎えられるようになったことを保護者に伝えることで、初めての場所にならないのでありがたいという声がたくさんあった。

・園の思いや子どもの遊びのねらい、思いを少しずつ理解してくださる方が増え、そのことを共有しつつ話せるようになってきた。

ドキュメンテーション等で子どもの姿や学び・育ちを発信することで、保護者からの理解も少しずつ進み、保護者が保育に興味を持って参加する姿があります。

保護者との関係が良好になることで、保育者自身の励みになるなど、ドキュメンテーション等が、保護者・保育者両者の支援につながるツールとなることが伺えます。

また保幼小連携についても、保護者に発信することで、子どもや先生同士をつなぐだけでなく、保護者の安心にもつながっていることがわかります。

『職員、園、校』

・職員同士、思いの統一化やあまり話さない職員の声が聞けた。

・作品展を子ども主体としテーマをなくした。子どもの普通のクラス展示としたところ、さみしく感じられた保護者もあった。見せるための運動会、作品展、発表会、きちんと待てる、みんなできちんとやれることを素晴らしいと思ってきた保護者と、どのようにコミュニケーションをとっていくかと、常に園長と悩んでいる。

・ドキュメンテーションを通して、保育の理解が高まった。

・パラレルトークをすることで、子どもと意思疎通が以前よりもできるようになった気がする。

・年齢の発達に合っていたのか考えて遊んでいる。

・環境構成を考えることで、子ども同士をつなぐことにもなり、職員同士も意識して活動を考えるようになった。

・子どもたちのしたいこと、思っていることに目を向け、やりたいことが実現できるように環境、援助を考える中で、遊びが継続するようになってきている。

【小学校】

・うまくいかないこともたくさんあったが、失敗ではなく、その中から子どもが学ぶことが一つでもあったらよい、という思いで教師も見守ることができた。
2. やりたかったができなかった: 16人

子どもや保護者の変化とともに、先生達自身の変化についても意見が寄せられました。

子どもたちの発達や思いにより目を向け、職員同士がつながり、試行錯誤しながら取り組まれている姿が見えてきます。

そうやって変化してきたことによる新たな悩みも出てきています。

自分たちが変わり、保育・教育を変えたことにより、子どもたちがより主体的になった。その良さを保護者にどう発信すればよいか。

各園・校でもおたよりや懇談会で、自分たちの目指す姿などを発信され、理解を得られるよう工夫しておられます。

頑張って取り組まれている園や学校を応援することは行政の大事な役割の一つです。

今年度本市では、保護者向けに乳幼児期の子どもの育ちの特徴などをお話する講演会や説明会を行ったり、子どもを主体とした保育や保幼小連携、ドキュメンテーションといった研修の取り組みなどをお知らせする広報まいづる特集号を発行したりといった活動を行ってきました。

公開保育を実施された園からも広報まいづるを読んだ保護者から、「こういうことをされていたんですね。」と理解していただけたといった意見が寄せられました。

引き続き、保護者や地域の皆さんにご理解いただけるような活動を行い、園や学校の先生方の取り組みを応援していきます。

【保育所・幼稚園】

・子どもの自主性を引き出すことができず、つつい口出し手出しが多くなり、子どもの力を引き出すことの難しさを感じる。

・活用できる機会があればぜひ活かしたい。

・乳児で年齢的に少し難しい気がした。

・経験不足もあり、これからいろいろ経験していくうえで活かしていけたらと思う。

・園全体としての方向性がまだはっきりしていないこともあり、実践するのが難しかった。

・他園の取り組みを知って参考になった。人的環境、物的環境の面で「いいな」と思うことが、できないことも多かった。

・乳児にも泥遊びをさせてあげたいが、遊んだ後のシャワーや着替え等で担任間だけでは十分に楽しませてあげられない環境。

・研修後はやってみたい気持ちはあるが、実際行事や時間に追われることがほとんどで、行事のときは行事だけの毎日。子どもを主体とした行事の内容にするのが、行事のあり方、年間計画、園の方針など見直していくことも必要なのではと感じた。

・研修を受けている時は、実践したい、実践していることを想像するが、園に戻ると、日々の保育に行事に追われ、結局実践できない。

【無記名】

・職員の意識改革がまだできていない。

3.ない: 6人

【保育所・幼稚園】

・子どもたちがけがをしないように、危険になるようなことはさせないようにという意識があり、なかなか子ども主体の保育をすることができなかった。

・保育記録(写真・メモ)などはしているが、クラスだよりなどで少し保護者に紹介しただけで、まだ十分ではない。

その他

【保育所・幼稚園】

・発表会に向けての取り組みでは、子どもたちの思いや考えを友達同士で伝え合い、取り入れながら楽しんでいる。一步下がって子どもの様子や、やりとりを見ることで、新しい観点で取り組むことができています。

・他の園や保育士の保育を見ることは、とても参考になり自園に活かしたいとは思っているが、なかなか難しい。しかし一つでも自分のものにしてきればと思う。

・幼小連携を進めることができた。

・研修に参加し、話をお聞きしている時は、「明日から活かしたい」と思い、心新たに現場に戻るが、日々の保育の中での実践はなかなか難しいと感じる。が、本園の公開保育後、助言をいただいたことで、肩の力を抜いて保育に取り組めていることは、子どもたちにとっても良かったと思う。

できなかったや、やったことがないという意見についても、やってみようとして、実際にやってみる中で、思うところまでできないことなどを書いてくださっています。

実践につなげるには、一人だけでは取り組みにくいこともあり、園や学校全体に理解を広めることが必要です。

また行事のあり方や園の方針まで見直すことも必要なのではないかといたさらに進んだご意見もいただいています。

行事などに追われて取り組めないといったご意見もあり、時間の確保や、負担の少ない学びの手法などについて検討する必要があります。

公開保育の後、肩の力が抜けた状態で、助言を活かしておられる姿も見られ、公開保育の際だけでなく、日々の保育の中での学びのお手伝いもしていくことが大切であり、乳幼児教育コーディネーターを中心に乳幼児教育センターの業務として取り組んでいくため、その手法等について検討していきます。

保護者の声

保護者への発信として、クラス・保育所日より、その他のたより等でも、子ども達の興味・関心から繋がって展開されている保育の様子や、遊んでいる姿からみえる学びを、年齢の発達と合わせて伝える努力がなされてきました。

特に、保護者と直接顔を合わせ話し合うことができるクラス懇談会の中では、ドキュメンテーションやスライドショーを活用し、子ども達の日々の生活や遊びの中にある学びや育ちを知ってもらうこと、その育ちを支えていくため保育者が大切にしていることを、子ども達の姿をもとに伝える工夫も見られます。

その中で、クラス懇談会等の保護者アンケートからは、子ども主体の保育についての理解、保護者自身の子育てに対する意識の変化の様子が伺えました。

**【クラス懇談会保護者アンケートより】
【遊びの中での子ども達の学び、育ちについて】**

◇大人にとっては当たり前のことも、子どもの目線で気づいて発見して、毎日成長しているんだなど感じました。

自分で発見し、調べようとする姿はとてもステキだなと思いました。

◇自然や生き物との触れ合いを体験できることにより、それらを共存して生きていると言うことを自ら感じ取ることができているように思えます。

◇成功も失敗もすべての経験がこれから先の学習に結びついて子どもの成長に繋がっていくことが分かりました。

◇子どもにとって遊びがとても大切なものののだなと、感じました。家ではついつい見過ごしたり、子どもが気づいたことに、耳を傾けてあげられないことも多いのですが、聞いてあげたり、一緒に驚いたり考えたりしてあげたいなと思いました。

◇家でも何かを説明して相手に理解してもらおうということが増えた。

◇「なんで〇〇は〇〇なの？」と不思議に思ったことを聞いて知ろうとする姿が多く見られます。

◇親が見たら「遊び」でしたが、その中に色々な気付きや学びがあることが分かりました。遊具の使い方は大人では理屈で考えることを、子どもは遊びながら自然と学んでいると分かりました。異年齢児との交流で、人とのかかわりを学んでいると思いました。

【子ども主体の保育について】

◇子どもたちの気づきから広げる活動をしていただいているので、気づく力がとても育っていると思いました。

◇先生が答えを言ったり急かしたりせず、子ども達がとことん考えられる環境を作って下さっているのが分かり嬉しいです。

◇季節ごとに色々な行事・遊びを通して、実際に肌で感じる体験を保育所でさせてもらっていることは、子どもの財産だと感じる。テレビやスマートフォンで知識を得ることは簡単だが、実体験でしか得られない気付きの大切さを学ばせて頂いていると感じた。

◇子どもの主体性を大事にしてあげないといけないと思いました。見るもの何にでも興味をもち、色々なことを考えたり、感じたりするのを邪魔しないよう、大人の考えを押し付けたりしないよう、温かく遊びを見守る余裕をもちたいと思いました。

◇保育所内での遊びは、ただ無邪気にワイワイやっているだけだと思っていたけれど、1つ1つの遊びに子ども達なりの疑問があり、アイデアが生まれ、友達と一緒に相談しながら過ごしていることを知って驚きました。

◇先生方がよく勉強・研究されているのが伝わりました。時代は変われど、今も大人や子どもにとつ

て”生きづらい”社会です。保育所で経験している豊かなくらしが”生きる力”から”自分で生きぬく力”の礎になると信じています。

◇子どもたちの探究心にあふれた姿に感動しました。子どもたちのなぜ？やってみたい！という気持ちをとても大事にして実際に体験し、学ばせていただき感謝します。

これらの意見から、これまで多くの保護者が持っていた、子どもの遊びは「ただ遊んでいるだけ」という認識から、遊びの中にはたくさんの学びがあり、子どもにとって遊びこそが大切であることを広く知っていただけたことが分かります。

そして、遊びの大切さを知っていたことで、保育者が子どもの興味・関心から、教育的意図をもって環境を整え、子どもの姿から気づきを見とり、学びに繋げるため関わっていること、子どもを主体とした保育・教育が乳幼児期の子どもの育ちにとっていかに大切であるかを、理解していただけるようにもなっています。

また、発達段階や、発達の特徴、年齢ごとに大切にしたいこと、つけたい力なども丁寧に伝えていく中で、保護者自身が、何を大切に子どもと関わっていくのかを意識したり、子どもの育ちの見通しが持てることで、子育てへの不安が軽減され、心穏やかに子どもと向き合おうとする姿にも繋がっています。

今後の研修について

<保育・教育の専門職として、研修に参加するなど学び続けるために何が必要だと感じるか>

【保育所・幼稚園】

～意欲等～

- ・子どもを見る(保育する) 視点を正しくもって研修すること。
- ・専門職である自覚
- ・プロとしての向上心
- ・子どものために良い保育をしたい、良いかかわりができるようになりたいという気持ち。
- ・学ばされているのではなく、自ら学ぶ思いを大切に研修に参加し、それを実践・公開することで、保育を振り返り向上したい思いを持ち続けたい。
- ・新しい情報を取り入れたり、他園の公開保育・研修に参加して、自身の保育、自園の保育を振り返りする柔軟な姿勢、学ぼうとする姿勢、自身を高めようとする姿勢を持ち続けたい。
- ・続きのある研修、自ら受けたと思える研修、気持ちの高まりが必要。
- ・今までの固定概念に執着せず、どんどん研修会に参加し、頭を柔軟にしていかなければならない。
- ・向上心をもって研修を受ける。
- ・変えることに怖がらず、面倒くさく思わず、謙虚な気持ちでしなやかな心を持って挑戦する。
- ・やってみたいという意欲、子どもたちにこうなってもらいたいと思う願い。

～公開保育、ドキュメンテーション展示等他園との学び～

- ・公開保育を続けて、他の園を見て自分の保育を考えていきたい。
- ・公開保育を見させてもらおう→案や内容、様子を、公開保育に行っていない人にも見れるようにする。
- ・今日のような実際にドキュメンテーションを展示している場があることで、自分自身の参考にもなり、勉強にまる。
- ・専門職同士の意見交流ができる研

究会(このまま)

- ・研修も大切だが、公開保育など実践することにより、自分の意識が大きく変わった。

～時間の確保、園内研修、自学～

- ・多数の参加ができない中、復講という形で報告会をしている。舞鶴市内での研修は、できるだけ多く参加できるようにしたい。
- ・保育士全員が研修に行くことは難しい。ちゃんと聞ける理解できる復講の時間を持てるようにならないかと思う。
- ・臨時保育士という立場での保育中のかかわり方、主担の保育のビジョンを理解し、広げていけるようにするには、自分自身がもっと勉強しないとただのお手伝いになってしまう。お手伝いだけではダメだと思うので、語れるだけの力を身につけていきたい。
- ・研修時間、勉強する時間、みんなで勉強する時間の確保
- ・時間と保育体制を工夫。
- ・保育にしてもドキュメンテーションにしても、軸となるもの・土台となるものを明確にし、そこに向かってまずは自分で実践してみる。そのうえで研修に参加することで、自分と比較して足りないもの等を知ることができ、向上心がさらに高まる。
- ・自己発揮、保育を語ること。
- ・子どもの姿から何に興味・関心を持っているのか、この環境で十分なのかを常に考える必要がある。そして、保育者間の連携や先輩の保育の進め方、書類の書き方から学び、それらを吸収していくことが必要。
- ・園内研修の充実。保育を職員みんなで見つめる場、考える場をもっと増やしていきたい。語り合えるいい職員関係の構築。
- ・学ぶことの必要性、質の向上に努めることの大切さは十分に感じ、積極的に研修を受けたいとは思っている。日々の業務の人手のない中での時間のやりくりや保育士の負担は重いと感じている。舞鶴の質を上げる研修の仕方を全国レベルにすることは素晴らしいが、もっと足元を見なけ

ればとっている…

- ・公開保育に出られないことも多いので、園内でも公開保育をしてみる。
- ・園内研修というのはなかなか実現できていないが、同僚の先生方の話を聞く機会は大切。
- ・実践がとても大切。研修で学んだことは大切にし、子どもに返していきたい。
- ・学んだことを保育に活かしていくこと。出た課題を話し合ったりして次へ活かす。他の人が受けた研修を知ることも大事。
- ・園職員の共通理解と協力(時間がなかなかとれない)
- ・研修に参加するだけでなく、次にどう活かすか。また自分だけでなく園の仲間と伝えあい、協力し合うこと。

～小学校とのつながり～

- ・社会性を育てるために子どもの遊びを育てることが、問題解決能力を育てることにつながることを、小中学校の先生にも理解してもらいたい。小学校もアクティブ・ラーニングに取り組んでいる。幼児と小学校の共通の方向性があればよい。
- ・小学校の先生方と共に研修を受けたり、分かち合うことが必要。

～さらに学びたい内容～

- ・さまざまな家庭環境の子どもがおり、その子たちへのかかわり方やメンタル部分の学びを深めることで、情緒の安定につながる。その部分の知識も必要

【小学校】

- ・学べる時間の確保(行事等の精選)、熱意。
- ・見通しのある計画。
- ・自ら学ぶ、自ら動くということが大切だと北野先生の話を聞いて感じた。教師も主体的に学ぶことができれば、子どもも変わっていくと思った。
- ・今年度、保育所幼稚園の公開保育に参加できなかったため、来年度は参加したい。

<今後の研修に期待すること>

【保育所、幼稚園】

- ・公開保育は続けてほしい
- ・公開保育など他園の保育を見せてもらえることで、自分の保育を見直すことができるので、また機会があれば参加したい。
- ・他校種の先生方や他園の先生方と保育・教育について話していく機会を多く持ち、舞鶴の教育を考えあえればと思う。具体的にかかわりあえる場(保幼小連携)、垣根の少ない交流も増やしたい。
- ・接続カリキュラム、アプローチ・スタートカリキュラムについての研修。
- ・引き続き、子ども主体の保育についてをより深く
- ・引き続き、ドキュメンテーション研修等、保育の可視化に関する研修
- ・実際のドキュメンテーションを使った研修
- ・公私、保幼小ともにドキュメンテーションしていきたい。
- ・子どもと共に遊べるような参加型の研修
- ・支援が必要な子どもや保護者への関わりや対応についての研修、子ども情緒の安定・心身の発達につながる。
- ・遊べない子、支援がいる子、他の子とのかかわりが難しい子に対する保育
- ・子育ての経験がないため、保護者の気持ちに十分寄り添えていない時があると反省することがあるので、保護者の方のことも知れる研修を受けたい。
- ・北野先生の話を引き続き聞きたい。
- ・北野先生のお話がとてもよいので、これからも舞鶴に来ていただき、このような研修が受けられるとありがたい。
- ・(報告会での)実践報告がすごく参考になった。
- ・支援児を含めた実施研修報告をききたい。

【小学校】

- ・子どもの姿をとらえる目を養ってい

きたい。その方法や実践例を学びたい。

- ・引き続き、実践の公開や報告を吸収していきたい。
- ・児童や幼児の活き活きした姿を実践報告という形で共有して考えを深めていきたい。
- ・今日(報告会)は、広い視点から多角的に教育を見つめ直す機会になった。チャレンジしてみよう、もっと学びたいという思いを持った研修会だったので、今後も多くの先生から自分の実践が語られる場があればと思った。
- ・年度初めに保幼小での(指導者の)交流があると見通しを持って連携ができる。
- ・小学校教諭の保幼小連携の意識はまだまだ弱いように感じる。1年生担任の学級経営は言語の育っていない中での指導場面が増えるので、見取りの大切さを非常に感じる。連携担当や1年担任が毎年、木下先生や北野先生の話聞けるのは大きなことと思う。会議に出た担当は校内で研修することを義務付けると指導方法の共有が一気に広まるのではないのでしょうか。

【無記名】

- ・参加しやすい時間の設定
- ・研修に行ける職員配置。現場職員の研修もだが、保護者理解への話もお願いしたい。

今後の課題と検討事項:

- ・研修の体系化
園・校全体での共通認識が必要とのご意見もあったことなどからも、園長・校長向け、園・校のリーダーとなる主任・教務主任向け、経験年数が少ないまたは学び直したいフレッシュ向けなど、様々な対象に働きかけ、園や学校全体での取り組みにつなげていきます。
- ・研修テーマの検討
子どもを主体とした保育や保幼小連携、可視化など引き続き学びたいという声とともに、支援の必要な子や保護者支援に関する事項も学びたいという

意見がありました。

支援の必要なお子さんへの関わりについては、別の事業で行っているものもあり、研修の体系化に向けても、研修に関する情報の集約を図り、様々なニーズに対して効果的な研修を開催する必要があります。

・園内研修の活用

研修を受けたいが、時間や人手のなさから難しいといったご意見とともに、研修に参加した人の情報をしっかりと園内で共有したい、情報を共有して振り返り考え合いたいといった意見がありました。

負担の少ない開催時間等の検討と合わせて、こうした園内研修の活用を検討していく必要があります。

どのような研修が可能か、負担を少しでも減らすためにもお手伝いできることはないかなど検討していきます。

・公開保育等実践からの学び、公私園校種を越えた学びの継続

他園の公開保育や、ドキュメンテーションを見るなど、実践を見て学ぶことの効果を感じられている意見が多くありました。

また、公開自体は無理でも、報告会において行った、実践園・校からの報告が分かりやすかったとの意見もあり、これらについては継続しながら、より効果的な方法について検討を行います。

公開保育・授業では、公開して下さる園・校にとってもより役立つものとなるよう、公開園・校がどういう部分を見てほしいか、向上させたいかといった意向をもっと取り入れられるよう、事前協議を行っていきたく考えています。

さらに、研修を重ねてきた中で、研修での学びをいかに実践につなげるかといった次へのステップについても検討が必要です。効果的な学びのためのテーマや手法についてみなさんのご意見を取り入れながら考えていきます。

乳幼児教育センター

平成28年度では、事業を通して乳幼児教育センター機能の検討を行ってきました。

平成29年度についても、引き続き事業を実施するとともに、機能の確立に向け、以下に取り組んでいきます。

◇研修

○研修手法・内容についての検討

・公開保育について、公開園の質向上のための目標や課題に沿った内容となるよう事前協議を行い、公開園の希望を聞きながら、より参加者と実践者が語り合う形式(グループ協議)などの試行。

・保育所・幼稚園・小学校・中学校それぞれに興味を持たれている題材をテーマに置き、共に学ぶ機会を創出する。(例、次期教育要領・学習指導要領の改訂)

○園内研修支援

・乳幼児教育コーディネーターと協力して各園が自園の学びを深めるための公私保育所・幼稚園「研修リーダー」スキルアップ研修の開催

◇保幼小接続カリキュラム研究

○全体版カリキュラムの作成

・保育所・幼稚園年長児と小学校1年生の接続期に育ってほしい力等を示すもの。

○活動実践例の収集

・会議委員等が各園・校の保幼小連携活動の内容を写真・文章等で記録する、または各園・校が記録したものを収集する等の手法により、全体版カリキュラムで示す内容のイメージがわかるような実践事例集を添付資料として作成する。

◇「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」の実現

○教育振興大綱で示す理念の実現に向け、現在実施している保幼小連携と小中一貫教育との連携強化を図る。

・保幼小中連携研修会の実施、参加者の拡大
・保幼小接続カリキュラム作成におい

ても、15歳を見通す観点から中学校教諭の参画を検討する。

○報告会対象者の拡大

・事業の普及のため、近隣市や文部科学省の同調査事業受託自治体への案内等を行う。

これまで子どもを主体とした保育や可視化、保幼小連携の研修を続けてきましたが、平成27年度の乳幼児教育ビジョン策定時に結成した作業部会から保幼小中の連携が生まれ、今年度においては、これまでより多くの小中の先生にも参加いただいて保幼小中連携研修会を実施しました。

次期学習指導要領から見たこれからの教育についての内容としたところ、保育所・幼稚園だけでなく小中学校からも多く参加いただくことができました。小中学校の参加者からは、「乳幼児教育の重要性・連続性が理解できた。」との声が聞かれ、保育所・幼稚園側からは、「子どもを主体とした保育の研修・実践に取り組みやってきたことが、小学校で途切れるのではないかと不安だったが、小中でも主体的に進めてもらえると安心した。」といった意見が寄せられました。

このように、相互理解が進むよう、引き続き、保幼小中、そして保護者と園・校といった各分野をつなぐ役割について、検討していきます。

乳幼児教育コーディネーター

公開園・校に、説明や事前勉強会、事後の振り返りなどで訪問させていただきました。

また、題材のご提案やファシリテーター役として参加といった園内研修のお手伝いにつきましても、公開園はもとより、公開されていない園からもお声かけいただき、訪問させていただきました。

今後は、この園内研修のお手伝いにさらに取り組んでいきたいと思っております。

しかし、現在乳幼児教育コーディネーターが他の仕事と兼務の為多忙であることから、理想とするきめ細かな園・校訪問によるコーディネート業務に至っていません。

乳幼児教育コーディネーターについては、次のような事項について検討を進める必要があります。

- ・配置、体制
- ・業務内容の確立
- ・研究を行うための専門性の確保
- ・各分野をつなぐための幅広い知識の獲得
- ・育成方法(後進育成含む)

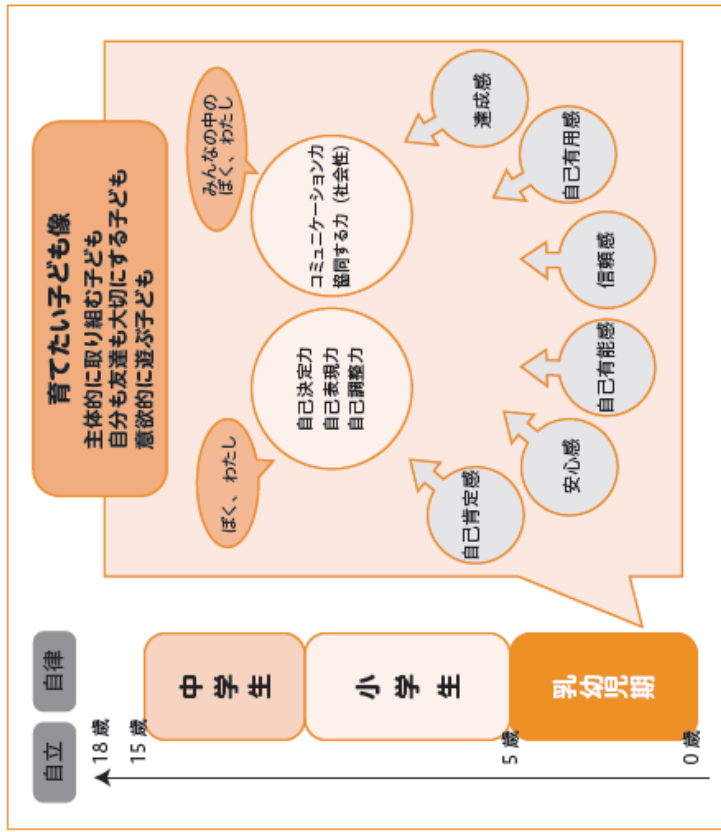
これらについて、事業を通して関係者のニーズを確認しながら、他市の取り組みや、様々な研究結果なども踏まえ、検討を続けてまいります。

本市では、平成31年4月に開設予定の公立幼保連携型認定こども園に乳幼児教育センターを併設予定であり、学びの場、連携の場として、皆さんの活動を応援し、みんなでつながり舞鶴の子どもを育み、主体性を育む乳幼児教育の推進が図れるよう、乳幼児教育センター及び乳幼児教育コーディネーターの役割・業務を研究していきます。

第2章 育てたい子ども像と基本理念

1 育てたい子ども像と育てたい力、育てたいこころ

本市では、「主体的に取り組む子ども」、「自分も友達も大切にすること」、「意欲的に遊ぶ子ども」の3つを育てたい子ども像として掲げ、自己決定力、自己調整力、コミュニケーション力等の育てたい力と安心感、信頼感、自己肯定感等の育てたいこころを育み、将来、自分で生きていく、自分で考えて行動していくという二つの「自立・自律」を備えた子どもを育成します。



①主体的に取り組む子ども

自分で考え、判断し、行動する「自己決定力」、自分の思いや考えを伝える「自己表現力」、集中し、根気強く取り組み、工夫し、見通しを持つ「自己調整力」を育み、自らが主体となり、遊びや生活等すべてにおいて主体的に取り組む子どもを育成します。

「ぼく、わたし」とは…主体的・意欲的な自分

【育てたい力】

- ◆ 自分で考え、判断し、行動する力「自己決定力」
- ◆ 自分の思いや考えを伝える力「自己表現力」
- ◆ 集中し、根気強く取り組み、考え工夫し、見通しを持つ力「自己調整力」

②自分も友達も大切にすること

自らの主体性を尊重され大切にされた子どもは、自分も大切に、友達も大切に、友達の主体性を尊重し、大切にすることができ、友達の遊びや体験の中で、人と関わりながら、あいさつをする、感謝や謝罪等の自分の思いや考えを伝える、相手の思いを聞く、話し合うという「コミュニケーション力」、ルールや約束を守ろうとする（規範意識）、認め合う、友達を思いやる、自分の気持ちをコントロールしようとする「協同する力（社会性）」を育みます。

コミュニケーション力や協同する力を育み、自分も友達も大切にすることを育成します。

「みんなの中のぼく、わたし」とは…友達や集団の中の主体的・意欲的な自分

【育てたい力】

- ◆ あいさつをする、感謝や謝罪等の自分の思いや考えを伝える、相手の思いを聞く、話し合うという「コミュニケーション力」
- ◆ ルールや約束を守ろうとする（規範意識）、認め合う、友達を思いやる、自分の気持ちをコントロールしようとする「協同する力（社会性）」

「みんなの中のぼく、わたし」が、共通の目的に向けて友達と力をあわせながら、協同的に遊ぶ体験を通して、学びに向かう力（意欲、集中力、持続力等）を育みます。

③意欲的に遊ぶ子ども

これら「ぼく、わたし」、「みんなの中のぼく、わたし」は行きつ戻りつ、相互作用しながら育っていきます。興味や関心を持って、様々な物や人、自然現象等（環境）と関わりながら、意欲的に遊ぶ子どもを育成します。

そして、育てたい子ども像、育てたい力を育むためには、安心できる居場所や信頼できる人と「安心感」「信頼感」を育てることが大切です。また、やりたいことをやる中で「達成感」を感じ、自分のことが好きと感じる「自己肯定感」、自分もできる、やればできると感じる「自己有能感」、自分が人の役に立った、人から認められたと感じる「自己有用感」を育むことが大切です。

「ぼく、わたし」「みんなの中のぼく、わたし」の力を育む基礎となるこころを育てます。

【育てたいこころ】

- ◆ 安心できる居場所で「安心感」を抱くこと
- ◆ 信頼できる人と過ごす中で「信頼感」を持つこと
- ◆ 自分のやりたいことをやる中で「達成感」を感じること
- ◆ 自分のことが好きと感じる「自己肯定感」
- ◆ 自分もできる、やればできると感じる「自己有能感」
- ◆ 自分が人の役に立った、人から認められたと感じる「自己有用感」

乳幼児教育ビジョン〈基本理念〉

2 基本理念

主体性を育む乳幼児教育の推進

～みんなが喜びが育む舞鶴の子ども～

「育てたい子ども像、力、こころ」で示した姿を実現するために、家庭・地域・保育所・幼稚園・小学校・中学校・行政等、子どもを取り巻く全員が認識を共有し、「主体性を育む乳幼児教育」を推進します。

(1)主体性の育成

① 自己決定力、自己表現力、自己調整力の育成のために大切にしたい関わり

子どもをたった一人のかけがえのない存在としてありのままを受け止め、よいところを見つけて、ほめることが大切です。一人ひとり違っていい、いろんな子がいて楽しいと感じられるよう、子どもへの理解を深め、個々の個性やよいところ、得意なところを伸ばすように関わります。

子どもは、興味や関心を持つと「やりたい」「やってみたい」と自分から関わろうとします。その気持ちを尊重することが意欲を育てます。また、自分で考えて行動するために、周囲の大人の指示や命令の言葉で行動するのではなく、子ども自身が気付けような関わりや声かけが必要です。

やりたい気持ちを尊重し、意欲を育て、自分で行動するために、周囲の大人は、言い過ぎない、答えを言わず見守る、自分で気付けるようなヒントを与えるなど、主体性を尊重した関わりを目指します。

また、子どもは、年上の人に対する憧れと信頼の気持ちを持って大人を見ています。「おはよう」等のあいさつ、「ありがとう」の感謝の気持ち、「ごめんね」の謝罪の気持ちは大人がモデルとなって、子どもに示し、大人自身が、ルールや約束、マナーを守ることを目指します。

② コミュニケーション力、協同する力（社会性）の育成のために大切にしたい関わり

自分の思いや考えを話すためには、周囲の大人が、子どもの言葉に耳を傾け、応答的にやりとりすることが大切です。伝えたい人、聞いてくれる人、応えてくれる人がいるから、子どもは話そうとします。伝えたい気持ちにはコミュニケーション力の土台でもあります。また、相手の思いを聞くということは、自分が聞いてもらったという経験や体験がなければ、難しいことです。

自分の思いや考えを話したり、相手の思いを聞いたり、話し合いの機会を持ち、保育所・幼稚園での友達同士や集団の中で、お互いが認め合うよう、一人ひとりのよいところや得意なこと、発見したことや行動したことを周りに発信することにより、一人ひとりが輝く場面をつくっていきます。

また、集団生活の中でのルールや約束があることは理解していても、適応できるかどうかは年齢・発達や個人差によることもあります。大人に決められたルールや約束よりも、自分たちで話し合っただけの約束の方が主体的に意識もでき、より守ろうとします。

ルールや約束を守るという気持ち(規範意識)を育てるために、ルールや約束を守ることは気持ちがいい、友達との遊びもより楽しくなるという経験や、どうしたら守れるかを、みんなで話し合う機会を持ちます。

加えて、人に強要されて我慢するのではなく、自分から気持ちをコントロールする経験が必要です。集団の中でのけんかやトラブルはチャンスととらえ、相手の気持ちに気づき、よいこと悪いことを判断する機会にし、自分の気持ちに折り合いをつけ、我慢をしなければならない経験も大切にします。

(2)自己を肯定するこころの育成

①自己肯定感、自己有用感、達成感の育成のために大切にしたい関わり

「自己肯定感」を高めるためには、一人ひとりのよいところを見つけ、ほめることが大切です。また、ほめられることで、「自分もできる、やればできる」という「自己有用感」を感じ、自分に自信を持つことにつながります。

やりたいことが自分なりにうまくいき、満足でき、周囲の人に認められることで「達成感」が得られます。さらに、「人の役に立つ自分、人に認められる自分」という「自己有用感」を感じることができ、この「誰かのために…」という気持ちは、将来、地域やふるさとのために役立ちたいという気持ちにもつながります。

子どもをほめたり、認めたりする関わりをすすめ、主体性を育成するための基盤となる「自己肯定感、自己有用感、達成感」を育てます。

②安心感・信頼感と愛着形成の確立

愛着とは、人と人との間で形成され、相手と一緒にいることを望み、一緒にいることで大きな安心感、満足感を感じられる関係とされています。愛着には、自分が働きかけると相手が応えてくれ、心地よさを与えてくれるという「相互的な関係」と、自分は周囲に温かく受け入れられているという「情緒的満足」、だっこやスキンシップ等の「身体接触的關係」という要素が不可欠です。

子どもの心の健全な育成のためには適切な「愛着」形成が重要であり、将来にわたる人への信頼感の出発点となります。

周囲の大人との信頼関係を深めるためには、信頼されていることが子どもにも感じられるように見守ることや、「失敗しても大丈夫」「間違ってもいいんだよ」とありのままを受け止めることにより、安心して何でも言える雰囲気づくりに努めるなど、(1)「主体性の育成」で示した関わりを大切にすることがあります。

家庭では、一緒に遊ぶ、子どもとの会話を心がける、ほめる、時間は短くてもふれあう機会(手をつないで歩く、抱っこをする等)を持つなど、各家庭に合ったつながりを大切に、安心・安定できる居場所となることを目指します。また、保育所・幼稚園では、一人ひとりの子どもへの思いや言葉を受け止め、保育者との愛着・信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる居場所となることを目指します。